

# 平成26年度「逗子市学習状況調査」の分析結果（小学校）

## 〇はじめに

平成26年4月22日に「逗子市学習状況調査」が行われました。この調査は、逗子市の児童・生徒の学習状況を把握・分析し、各学校の指導方法の工夫・改善および児童・生徒の学習に役立て、市として必要な施策の策定に資するために行われたものです。実施内容は、市内小学校5年生を対象とし、国語、社会、算数、理科の4教科で、神奈川県調査問題をもとに行われました。この分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善を図り、本市において教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るよう努めたいと思います。

なお、ここでいう学力とはこの調査で測ることができた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

## 1 実施状況

- 調査実施日 平成26年4月22日
- 実施教科 教科に関する調査（国語、社会、算数、理科）
- 実施学校・学年・調査数 逗子市立小学校5年生 414名

## 2 逗子市の調査結果の概要（小学校5年生）

国語	<p>国語は、「書く能力」（1設問）の平均正答率が85.0%、「読む能力」（7設問）が62.7%、「言語についての知識・理解・技能」（18設問）が71.0%とおおむね良好な結果でした。</p> <p>「書く能力」は、昨年度の平均正答率27.0%から大幅な改善が見られましたが、ポスターを選ぶ課題において「相手意識」と「目的意識」の両方にふれて解答できていた児童は40.0%で、45.0%の児童はどちらか一方にしかふれていなかったことがわかりました。選ぶ根拠として、与えられた課題を分析し、表現することに課題があることがわかりました。</p> <p>「読む能力」については、段落の論理関係をみる課題では正答率が51.8%という結果になりました。要点をまとめ、内容を把握することも3割から4割の児童が間違っている結果になりました。</p> <p>「言語についての知識・理解・技能」のローマ字の表記方法について、無答率が高いことがわかりました。その中でも、ローマ字を読むことについては正答率がおおむね良好な結果でしたが、書くことについては正答率が低いことがわかりました。このことから、ローマ字の表記について読むことはできても、書くことを苦手としている児童が一定数いることがわかりました。</p>
----	--

<p>社会</p>	<p>社会は、「社会的な思考・判断・表現」(10 設問)の平均正答率が 83.7%、「観察・資料活用の技能」(24 設問)が 84.5%、「社会的事象についての知識・理解」(8 設問)が 82.2%と良好な結果でした。</p> <p>「社会的事象についての知識・理解」では、都道府県の名称と位置について、無答率が約 10%と比較的高いことがわかりました。「観察・資料活用の技能」では、浄水場のしくみについて平均正答率が約 90%と大変よい結果でした。しかし、適切な資料の選択や資料から読み取れる情報の整理を苦手とする児童がいることがわかりました。特に、問六(1)赤田さんにおいては、変化を表す資料である①と②を選択できた児童は約 93%いましたが、そのうち約 25%の児童は間違った資料②を選択していました。また、問七(2)(イ)においては、資料から読み取ることができる情報から解答するのではなく、日常生活の自分の経験から解答している児童が約 75%いました。</p>
<p>算数</p>	<p>算数は、「数学的な考え方」(6 設問)の平均正答率が 63.7%、「数量や図形などについての技能」(12 設問)が 76.3%、「数量や図形などについての知識・理解」(6 設問)が 57.9%とおおむね良好な結果でした。</p> <p>「数学的な考え方」については、図形の面積を求める問題では、考え方を図示できた児童は 73.6%とおおむね良好な結果でしたが、それを式に表す問題では平均正答率 58.4%で、約 15%正答率が下がることがわかりました。同様に関係を式に表す課題では正答率が 51.1%という結果になりました。「数量や図形などについての知識・理解」では、二つの観点から分類整理した資料を読み取ることやひし形の性質を理解することについて、平均正答率が約 75%とやや良好な結果となりましたが、分配法則についての理解を問う設問の正答率が 52.5%、無答率が 19.6%と、分配法則については過年度から引き続き課題が残りました。また、面積について適切な単位を問う設問の正答率が 25.9%となりました。この問題においては、<math>m \times m = m^2</math>と考えて選択肢①を選んだ児童が 46.2%おり、問題文中の係数 3 という条件をもとに、単位変換をすることができていない生徒児童が多数いることがわかりました。</p>
<p>理科</p>	<p>理科は、「科学的な思考・表現」(11 設問)の平均正答率が 62.8%、「観察・実験の技能」(2 設問) 58.1%、「自然事象についての知識・理解」(13 設問)が 72.9%とおおむね良好な結果となりました。</p> <p>「科学的な思考・表現」では、晴れの日を表すグラフについて平均正答率が約 90%と大変良い結果でしたが、理由をかけた児童は 34.5%にとどまりました。また、事象を理解し、その事象に当てはまらない事象を選ぶ問題において、正答率 30.8%と課題が残りました。この設問は、すべての誤答選択肢の選択率が高く、見当もつかなかった児童が多くいたことがわかりました。「観察・実験の技能」では、一日の気温の変化のグラフを読み取るとは平均正答率 78.4%とおおむね良好な結果でしたが、方位磁石を使って星座の位置を問う課題において正答率 37.9%と課題が残る結果となり、地上と天球とで異なる方位磁針の使い方について理解できていない児童がいることがわかりました。この設問では、方位磁針の「北」を上に向けている誤答選択肢③を選んだ児童が 42.5%いました。「自然事象についての知識・理解」では、乾電池の向きとモーターの回転の関係を説明できていた児童が 23.3%と課題の残る結果となりました。</p>

### 3 調査結果を踏まえた指導の改善

#### (1) 国語

書く能力	自分の考えを説明するためには、説明する目的が必要です。今回は誰に対して説明をするのか（相手意識）、何について説明をするのか（目的意識）ということを設定からつかむことが必要でした。日ごろから課題を設定し報告させたり意見を述べさせたりする場合には、その目的を明確にするようにし、時には伝える相手を変えて説明してみるなどの活動も大切です。
読む能力	文と文や段落どうしの論理的な関係をとらえるなど、意味的なまとまりごとに論理的なつながりを考えることが必要です。また、論理的な意味をとらえる上でも段落ごとの要約や文章の要約など、より大きなくくりで意味をとらえていくなどの構成的なとらえ方も大切です。
言語についての知識・理解・技能	漢字の書き取り問題とローマ字の表記方法についての設問において無答率が高いこと、ローマ字の表記方法についてはローマ字を読むことよりも書くことの方が正答率は低いことから、漢字の成り立ちやローマ字の基本的なルールの習得を徹底し、児童の苦手意識をなくすことが重要です。

#### (2) 社会

社会的な思考・判断・表現	日常生活で得られる情報を社会の中での事象と結びつけて考えることが重要です。また、日常生活の中の事象に対し、なぜそれが行われるのか、それを行うことによってどのような結果に結びつくのかについて考察することも大切です。
観察・資料活用の技能	資料から読み取ることができる情報について、正確に把握することが求められます。また、一般常識として知っている情報と与えられた資料から読み取ることができる情報に違いがあることを理解する必要があります。一つの資料から正確に情報を読み取ること、二つの資料から読み取った情報をまとめることを日頃の授業の中でも取り入れる取り組みが必要です。
社会的事象についての知識・理解	都道府県の名称と位置について、正確に把握することが求められます。知識の定着のためには複合的に学ぶことが大切で、たとえば、都道府県の形の特徴や海に接しているかないか、地形的な要因から生まれた特産品など、多くの他の情報と結びつけて覚えることも大切です。

### (3) 算数

数学的な 考え方	数学的な言語である式に、数学的な考え方をまとめていくことが大切です。どのように考えるのかは図や表を使って表出させたり、言葉で説明させたりする活動が大切です。それに加えて、自らが述べた考え方がどのように式に変換されるのかを一つ一つ対応関係を見せるなどして式に表現できるようにしていくことが求められます。
数量や図形 などについて の技能	四則計算については、( ) 内から計算することや、加法・減法の計算よりも乗法・除法の計算を先に行うなど、優先順位のルールを定着させることが重要です。その際、ルールを間違えて計算すると結果が異なってしまうことを提示することで児童にルールを意識させることは効果的です。また単位変換も概数にした場合なども含め、日常的に単位変換が出てくる状況を設定することが大切です。
数量や図形 などについて の 知識・理解	分配法則については、( ) でくくっているときと( ) を開いた時とどこがどこに対応しているのかという点に着目することで理解を深めていくことが大切です。また、問題の中で与えられた情報は正解を導き出すうえで必要不可欠な情報です。与えられた情報、条件について正確に読み取り、それを活用することが重要です。

### (4) 理科

科学的な 思考・表現	日常生活の中で見られる現象に対し、なぜそのような現象が起きるのかを考察することが大切です。水を熱すると水が減っていく、冷たい飲み物を冷蔵庫から出すと周りに水滴がつく、といった日常生活の中で見られる現象から「なぜ」を意識させることが必要です。
観察・実験 についての 技能	観察・実験の手順、方法にはそれぞれ理由があります。なぜそのような手順・方法で観察・実験を行わなければならないのか、理由を理解することが重要です。また、手順・方法を理解したうえで、実践してみることで着実に身につけるよう指導することが求められます。
自然事象 についての 知識・理解	乾電池の向きによって電流の向きが変わるなど、体験させながら習得させることが大切です。特に乾電池の向きによって電流の向きが変わるといった目に見えない現象を理解させるには、プロペラの回る向きが変わるといった目に見える事象を観察することで理解を深めていくことが必要です。